

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500291		
法人名	医療法人社団 生和会		
事業所名	グループホーム 和み		
所在地	山口県周南市大字湯野4298番地1		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町受理日	平成27年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湯野の温泉街の静かな山間で、周囲は一般住宅になっており、施設としての目的に適った立地条件にあります。又、同法人の医療施設もすぐそばにあり安心して生活が送れます。ゆったりとした環境の中、施設は一切せず、スタッフと利用者という枠を超え、共に生活を送る共同生活者として、三食の献立・食事作りを一緒にに行い、レクリエーションにも参加されながら、落ち着いた生活をされております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との日々の関わりの中で、利用者の思いや希望の把握に努めておられ、利用者を理解されて一人ひとりに必要な支援の在り方や対応について朝の申し送りやミーティングで話し合われ、職員間の共通理解を深めて、利用者が笑顔でその人らしい日々が過ごせるように支援に取り組まれています。法人の栄養士の助言を得ながら、三食ともそれぞれのユニットで食事づくりをされています。利用者は食事の準備から後片付けまで職員と一緒にしておられます。利用者とは職員は会話しながら、楽しく食事をされている他、行事食(花見、クリスマス、誕生会)や月1回の外食など、利用者が食事を楽しめるように支援しておられます。春祭りや敬老会、忘年会など、家族が参加できる行事を開催されている他、運営推進会議にも、毎回6人～8人の家族が参加しておられるなど、家族との関係が深まるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で生活することの大切さを元に、事業所理念を作成し、玄関、各ユニットに掲示し、カンファレンス時・申し送り時には念頭に置き、実践に繋げている。	「住み慣れた地域の中で、たくさんの笑顔と自信を持って共に暮らしつづける場を提供します」という理念を基本方針とともに、玄関や事務室、各ユニットに掲示し、カンファレンスや申し送り時に確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕の笹や野菜などの差し入れなど、近隣住民との交流もある。又、近隣の温泉施設へ外食へ出かける等自然な形で地域との繋がりを持っている。	近隣住民と散歩時や足湯に出かけた時に挨拶を交わしたり、七夕飾りの笹や野菜の差し入れがある。中学生の体験学習の受け入れや法人の託児所の子供たちが豆まきに来訪したり、法人の「なごやかフェスティバル」に参加して交流しているなど、地域とつながりながら暮らしていけるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場体験学習への事業所解放を継続することで認知症の方とのふれあう機会を提供する。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価を行い、日常の支援の振り返りを行うことで、問題意識を持ち改善へと繋げていく。	運営者、管理者、職員共に評価の意義を理解しており、自己評価は各ユニットごとのミーティングで管理者が読み上げて確認し、取りまとめている。評価の中から課題を見つけ、改善につなげている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎、市役所の職員・地域包括支援センター職員、介護相談員、消防職員、派出所の方、近隣の方、御家族に参加して頂き、運営状況、活動状況、利用者の方の日常生活、行事内容等について報告し、災害時の防災について意見交換を行っている。	2ヶ月毎に開催し、事業所の取り組みや利用者の状況、職員状況等について報告を行い、意見交換で災害対策について話し合っている。	・地域メンバーの拡大

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、市の高齢者支援課の職員の方が、運営推進会議のメンバーに入っており、運営やサービスについて電話、メール、直に訪問を行い協力関係を持つようになっている。	運営推進会議時や日頃から電話やメール、直接出向いて、相談や情報交換をしている他、市の関係会議に出席しているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修も行い、利用者の方自身を知ることにより、個々に応じた対応を行いながら、安全を考え、拘束や施錠をしないケアを行っている。	職員は、法人内外の研修を通して、正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束しないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になることがあれば、管理者や職員がお互いに注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会をもち、高齢者虐待が起こりうる状況を確認しながらカンファレンス時に、高齢者介護（認知症）の理解や全職員が無理なく行える支援を検討しながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中でスタッフが学びながら、必要性のあるご家族に対しては、制度内容をきちんとご説明できるよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のサービスについて十分なお説明をさせていただき、理解・納得をされたうえでの締結、解約を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員としての苦情相談窓口について、ご家族に説明しており、運営推進会議のメンバーにもなって頂いていることから、気軽に話せる機会を作っている。	第三者委員を選任し、相談、苦情の受け付け体制や処理手続きについて、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、電話等で家族から意見や要望を意見を聞く機会を設けている。介護相談員が毎月来訪し、利用者の意見や要望を聞き事業所に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で働いている管理者や職員の運営に関する意見や提案を、2ヶ月に一度開催されている同法人内施設合同会議にて、聞く機会を設けている。 法人報告会が月に1回あり、運営状況や職員状況など現場のことを伝える機会がある。	管理者は、ミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。月1回、法人に意見を伝える場があり、運営やサービスに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ゆとりのある勤務体制の中、勤務状況に応じて給料水準の引き上げや福利厚生充実にて職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり、外部研修についても、職員のスキルアップの為に積極的な取り組みを業務の一環として行っている。	外部研修は、勤務の一環として職員の段階に応じて参加の機会を提供している。受講者は復命講習を市、共有している。山口県宅老所・グループホーム協会の西部研修に参加している。内部研修は毎月ミーティング時にケアについて研修している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入や近隣のグループホームとの合同研修への参加など、積極的に交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様、本人様の思いに耳を傾け、アセスメントをしっかり行い、環境の変化に対するストレスの軽減を図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスに対する説明を見学も含めて十分に行い、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族が必要とされている支援について、要望を聞き入れながら、他のサービス利用も含めた対応を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰支援を行わず、本人の出来る事の大切さを職員が理解し、利用者さん本人を知る事によって自らが自然の形で日常生活を行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型行事や誕生日会などの呼びかけや、利用者の方にはご家族の方の支援が必要である旨を日々の生活報告を行う事で、ご家族から協力を得られている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際、馴染の場所やご自宅へ立ち寄り、馴染の方々の来訪などがある。昔から通っている美容院へ御家族様と一緒に行かれている方もいらっしゃいます。	知人の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い状を出す支援、昔なじみのスーパーや自宅周辺へのドライブなどの支援をしている。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や外食、外泊など、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格や状態を把握し、小さなトラブルを未然に防ぎながら、個々の意思を尊重し、お互いが助け合える状況作りを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療施設に入院されている方への面会など関係が途切れることのないように努めている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話のなかから見えてくる想いを記録に残し、本人にとっての暮らし方について検討している。	日々の生活の中での利用者の言葉や行動から思いや希望を把握し、「」書きや朱筆で介護記録に記録し、職員間で共有している。困難な場合は、利用者本位に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の情報を元に、以前サービス利用していた事業所への状況提供を求め把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、ケアチェック表、ケア日誌等により、全職員が把握できる体制を作っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ、ケアマネを中心に3ヶ月に一度、必要であればその都度、本人様の支援に携わっているスタッフ、ご家族様にて現状に応じた支援のあり方を話しあっている。	カンファレンスを毎月開催し、計画作成担当者、利用者を担当する職員、ユニットリーダーが中心となって、利用者の思いや家族の意向、医師の意見等を参考にして話し合い、介護記録を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、期間に応じた見直しや利用者の状況に変化があればその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録については、カンファレンス時に、担当・ケアマネよりケアプランの内容に基づいたものや、特変については詳しく記録するように呼びかけることで、意識付けができ計画の見直しにも活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎や、個々の要望に合わせた買い物、などを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある飲食店への外食など活用している。他の資源も活用して行きたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医へ定期受診を行い、心身の状態をフィードバックし、ドクターと良関係を保ちながら、職員同行の元に、適切な医療が受けられるよう支援している。	其々のかかりつけ医の受診を家族の協力を得て支援している。受診時には同行や情報提供して、適切な医療が受けられるよう支援している。週1回、訪問看護師が来訪し、健康管理や医師への連携の支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による健康管理をしており、必要時の受診を行い、服薬に関しても薬剤師の指示をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされてから、和みへ帰居までの医療機関との連携に関しては、同法人内の地域連携室のスタッフの協力がえられスムーズに行えている。帰居されてからの医療的なアドバイス・サポートも同法人医療機関で受けられる。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様、主治医や支援する仲間(看護師・職員)との十分な話し合いを元にその方にとって幸せのあり方を考えながら支援を行っている。	重度化した場合における対応に関わる指針を作成し、契約時に家族に説明している。重度化や終末期対応の事例はないが、実際に重度化した場合は、職員、家族、医・訪問看護ステーション等関係者と話し合い方針を共有し支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各利用者様におけるリスクについては、カンファレンス時に意見を上げ、マニュアルを定め、急変・事故発生時の内、外部研修を開催している。全職員の実践力を身につけられるよう定期的な訓練を行っている。	事故報告書やヒヤリハット報告書に記録し、その場で対応策を検討し、記録用紙を掲示して、全職員で共有し、再発防止に取り組んでいる。急変や事故発生に備えて、定期的な研修や普通救急救命研修を職員全員が受講して備えている。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の総合訓練と年2回の避難訓練を職員が少ない夜間を想定して行っている。地域の方や御家族様の参加により安全に避難できる方法も考えている。火災については原因除去にも取り組んでいる。	消防署指導による総合訓練を年1回、夜間を想定した避難訓練を年2回、利用者も参加し実施している。家族や隣人1名の参加があったが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のカンファレンス時に支援方法について話し合い、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないよう職員が意識しながらの支援を心かけている。	毎月のカンファレンスや法人内外の研修で人格の尊重やプライバシー保護について学んでおり、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になることがあれば管理者や職員同士でお互いに注意し合っている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色んな場面で、自分の思いを主張され、利用者の方に選択して頂けるような支援を行っている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の1日のペースを考え、業務内容の変更を行い、結果として夜間しっかり睡眠がとれる、食事が美味しく食べられるなど、個々の希望に添いながら、支援を行っている。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時計をつけられるのがお好きな方に、毎日つけていただくようにしたり、いつも綺麗なハンカチを持ていただくように支援している。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三度の食事を利用者の方と職員で、献立から、片付けまで一緒に行い、職員も同じ物を食べながら、話題提供を行い、美味しくいただけるようにしている。	三食とも、法人の栄養士の助言を得ながら、それぞれのユニットで食事づくりをしている。利用者は、献立や下ごしらえ、配膳、下膳、盆拭きなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は会話しながら楽しく食事をしている。花見、クリスマス会、誕生日などの行事の時には、ちらし寿司やケーキづくりをしたり、ソーメン流し、サンマ焼き、月1回の外食に出かけるなど、食事を楽しむことの出来る支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量については、咀嚼、嚥下の状態に合わせて、食材の工夫を行うなどし、集計表にて、個々のチェックを行い、水分の足りない方についても、個々の好みを考え、ゼリーなどを取り入れるなど、個別支援を行っている。栄養面は、定期毎に医療法人の栄養士からアドバイスがある。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合ったケアを行っている。口腔内の確認、残歯がある方は、歯磨きの介助や歯磨きアドバイス等、状況把握に努めている。清潔保持の為に、歯ブラシの回収・洗浄・保管、夜間の義歯消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表作成を行い、排泄パターンを職員が把握し、トイレ誘導を行っている。カンファレンス時には、利用者個々に合わせた紙パンツやパットの使用を話し合い変更を行っている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、必要な人には声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水や、体操、散歩、水分摂取、定期的な排泄誘導(食後)などや、食物繊維の多い食材を取り入れることにより、自然排便に繋がるよう工夫している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴とし、本人の状態、体調に合わせ、1日を通し、時間的にゆっくり入浴して頂いている。	入浴は毎日、9時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて一人ひとりがゆっくり入浴できるよう支援している。状態に合わせ、清拭やシャワー浴、足浴を行っている。入浴したくない利用者には、時間をおいて再度声かけしたり、職員が交替して入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の確保、居室内の温度調整、日中はその方の体調、体力に合わせた休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤情報提供書をファイルし、目的や副作用、用途等について理解すると共に、薬は手渡し、服薬を確認している。受診時にはケアチェック表を持参して、必要な情報を医師にフィードバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やお花の好きな方には花壇の手入れ、家事の好きな方には、台所にて、食事作りやおやつ作りを職員と共に積極的に参加して頂いている。	写経、歌、習字、塗り絵、貼り絵、読書、新聞を読む、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物タタミ、テレビ体操、風船バトミントン、犬の世話、花の水やり、食事づくりなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある暮らしができるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外食や日常の中での散歩、ドライブ、玄関先での日光浴など、御家族様が来所されたときには、御一緒にドライブや散歩やお食事などに出掛けられている。	散歩、足湯、季節の花見(桜、梅、コスモス、紅葉)やドライブ、近隣での買い物、月1回の外食など、戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解の上、金銭の支援を行っている。使える許容範囲にて、自由に買い物されている。希望のある方に対しては、ご家族にお話しをし許せる範囲で持っていていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への暑中見舞いや新年の挨拶、バースデイカードなどを職員の支援の下、書かれ郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、いつも清潔にしており、食事作りの香りや音、季節の草花の鑑賞すること、で、季節に応じて自然に生活出来る。	共用空間は広く明るく、戸外の眺めがよく、市木の移り変わりを感じることができる。リビングにはテレビやソファを配置し、壁には利用者と職員と一緒に作成した季節に合わせた貼り絵や利用者の塗り絵の作品集が飾ってある。1階では犬を飼っていて鳴き声や動作に癒しを感じたり、2階ではプランターに花を育てて季節感を感じたり、居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間、廊下などには椅子、ソファを設置し、思い思いの場所で過ごせる空間作りを行っており、自由に気の合う方同士が、過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際に新しいものを購入されずに昔から使われていたタンスの持ち込みをされたり、壁飾りを職員と一緒に作って飾ったり、写真など飾られている。	寝具、衣服、タンス、テレビ、机、椅子、ぬいぐるみ、化粧品、仏壇、写真、カレンダー、時計等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、その人らしい居室づくりをして、安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内、バリアフリーにし必要な場所に手すりを設置、ソファなどは本をとりやすい位置に置くなどの工夫をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム和み

作成日： 平成 27年 2月 5日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5 (4) 36 (16)	運営推進会議に地域の方の参加がない為に、関わりが少ない。そのために、災害時に地域の協力が得られない可能性が大いにある。	地域との交流が増えていく。	※民生委員の方へ運営推進会議の出席をお願いしていく ※近所の方へ運営推進会議の出席をお願いしていく	12ヶ月
2	35 (15)	事故発生時の対応が全職員同じレベルに達していない。	全職員が事故発生時に、落ち着いて状況を判断し初期対応、応急処置を行えるようになる。	定期的に普通救命救急を受講していく 施設内研修時に起こりうる事故を考え、同時に防止策を考えていく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。